

国立大学法人等の
若手職員の声
2008



国立大学法人等の若手職員の声 2008

関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験実施委員会幹事会採用試験事務局

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号 東京大学本部内

TEL:03(5841)2768 FAX:03(3818)6160 <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/ssj/>



はじめに

この冊子は、国立大学法人等職員を志す方にとって、若手職員の日頃の仕事の様子や感じていることをお届けし、少しでも多く先輩の声に接することができるようにということをおねらいとして作成しました。

国立大学法人等職員が目指す人材像は、経営企画を担う人材であったり、教育研究を直接支援する人材であったり、専門的業務を遂行する人材であったりで幅広く深いものです。このような職員が活躍することによって、国立大学法人等における教育と研究が、グローバルかつ世代を超えて実り豊かに進展するものと考えます。

この冊子を手にしたみなさんが私どもの仕事の魅力の一端に触れ、また、国立大学法人等職員を志す方の道しるべとなることを願ってやみません。

関東甲信越地区国立大学法人等
職員採用試験実施委員会幹事会採用試験事務室

<注>

体験談の執筆者について

体験談を寄せてくれた若手職員は、いずれも、平成18年8月から平成19年7月までに関東甲信越地区の国立大学法人等機関に採用された方です。日頃の仕事の様子や思っていることの他に、二次試験の様子もありのままにお伝えするために、所属機関名と氏名はあえて書いていただきませんでした。

用語集について

体験談で使用されている言葉で一般には馴染みのないと思われる言葉や説明会で良く聞くがわかりにくい言葉(いわゆるギョーカイ用語も含みます。)を、平成18年度採用の職員に選んでもらい、関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験事務室で解説したものです。わかりやすさを第一に作成したため、厳密さには欠けるところがありますが、おおよそのイメージをつかんでもらうことをねらいとしております。用語についてさらに詳しくお知りになりたい場合は、ご遠慮なく関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験事務室へお尋ねください。

所属課名：総務部人事課

名前：S.M.

性別：女性

星座：おうし座

今の仕事について、内容や担当を教えてください。

常勤・非常勤を問わず全ての教職員の採用・異動等について、人事データの入力及び履歴書等の管理、発令を行っています。事務職員の採用に関しては、一次試験・採用説明会・面接の実施も業務としています。その他、在職証明書の交付や兼業に関する手続など、多岐にわたります。

職員になる前に思っていたことと今の思いについて教えてください。

大学ということで、学生や教員と密接な仕事を想像していました。今の部署は学生とはほとんど接点がなく、教員との関わりも書類越しなので、どちらかというと大学らしい雰囲気は乏しいかもしれません。最も大きなギャップは、採用される側から採用する側へと立場が180度転換したことです。職員として臨んだ初めての採用面接では、受験者の緊張が移ってしまったのか去年の自分を思い出したのか、ずいぶんと緊張してしまいました。

仕事のやりがいは？

職員採用試験の実施をはじめ、大学を担う人材に関する業務に携わっている点にやりがいを感じています。今までで印象深いのは、文部科学省から依頼された、真正な学位と紛らわしい呼称についての調査を担当したことです。人事記録や履歴書、HP上の研究者情報等の、全教員数百人分の経歴に目を通さなければならず、たいそう根気が必要な作業を経験しました。大きな達成感を得られたと同時に、今世間を騒がせている高等教育への信頼が失われかねない問題に対し、職員として自分が調査に従事したことが感慨深いです。

職員になってよかったと思うことはなにか教えてください。

社会人一年目ということもあり大きな不安を抱えて新しい環境に臨んだわけですが、周囲は温かい人柄の方ばかりで、とても雰囲気の良い職場だと感じました。同期とも昼休みに食事をするほかプライベートで一緒に出かけることもあり、仲が良いです。どんな職種であれ、人とのコミュニケーションなしに業務を進めることはできません。その点で人間関係に恵まれたことはとても幸せなことだと思います。

今後の抱負を聞かせてください。

まだ経験していない業務も多いのですが、さまざまな業務のやり方を覚え、職員として一人前になるのが目標です。特に個人情報扱うなど、慎重さと正確性が要求される場面でのミスは許されません。今は目の前のことで手一杯ですが、いずれ大学全体の業務の流れを把握し、広い視野をもって自分の職務にあたる

ようになりたいと考えています。

試験対策は、何をいつ頃おこなっていたか、教えてください。

一次試験の勉強を始めたのは試験の半年ほど前からです。法律・経済について全く知識がなく、また文系なので理科系の科目が苦手だったため、独学は避けて公務員試験予備校を利用しました。ところが一次試験当日には体調を崩してしまい、高熱で意識が朦朧とするのに加え、ひどい鼻づまりのため全く問題に集中できない状態だったのです。普段なら解ける問題も答えを出せず、大部分がカンによる解答……。合格なんて諦めていた発表日、結果を知ってどんなに驚いたことか。健康管理の大切さを思い知りました。

二次試験に臨むにあたり、留意した点は何でしょうか？

面接を苦手としているのでせめて書類で良い印象を与えたいと思い、履歴書は時間をかけて文章を練り、一字一字丁寧に書くことを心がけました。採用面接は各機関それぞれ異なる方法を採用しています。履歴書の様式が指定されていない場合は、書く項目が多いものなど、よりアピールできそうな書式の履歴書を選びました。

二次試験は、どのような様子でしたか？

面接官数人との15～20分ほどの面接でした。緊張のあまり何を勘違いしたのか、質問に対して全般的な外れな答えを返してしまいました。その恥ずかしい思いをした記憶だけが強く残っていて、他に面接のことで思い出せることはありません。なにぶんあがり症なので、きつとしどろもどろで答えていたことは間違いなく、むろん内定をいただける予感なんてなかったのですが……。一次試験の時と違い、私の採用までの道のりは謎が多いです。

後輩へのメッセージをお願いします。

私も作成に関わったのですが、採用試験事務室が発行するパンフレットには、それぞれに個性あふれる機関が紹介されています。積極的に活用していただき、自分に合った良い職場とめぐりあうきっかけになれば幸いです。

所属課名：人事課

名前：T.U.

性別：男

星座：天秤座

今の仕事について、内容や担当を教えてください。

以下のようなことを担当しています。

- ・社会保険及び雇用保険に関する各種手続き
- ・長期給付（いわゆる「年金」のこと）に関する各種手続き
- ・教職員の各種健康診断の手配
- ・教職員のレクリエーションに関すること

職員になる前に思っていたことと今の思いについて教えてください。

私は、大学生活が七年と長かったので、採用が決まった当初は、その経験を活かすことのできる学務関係の部署に配属されるものとばかり思っていました。

ところが、四月になって実際に配属されたのは人事課でした。仕事の内容は、上でも紹介したとおり保険や年金関係の手続きです。これまでの経験は、ほとんど頼りにできません（ちなみに、私の大学での専門は漢文でした）。

おまけに四月は、教職員の転入・転出が多いため、一年の内で一番忙しい時期に当たります。最初の最初から失敗ばかりで「このままやっていけるのだろうか」と不安な気持ちに陥ったりもしました。でも、まわりの人のフォローのおかげで、何とか仕事を続けることができました。

正直なところ、今でも失敗することはしょっちゅうです。けれども、振り返ってみると、この仕事についてよかったなあと思うこともあります。例えば、年金や保険というものは、日本に住む多くの人がお世話になるものです。でも、そんな大事なものにも関わらず、しっかり理解をしている人は少ないと思うのです。もちろん、自分だって精通しているという程ではありませんが、これらと真面目に正面から取り組んだという経験は、とても貴重なものに思えるのです。

仕事のやりがいは？

年金関係の業務は緊張します。お金に関わることですし、その上、年金のシステムは非常に複雑で、その人の履歴や環境によって必要な手続きが異なるからです。

また、社会保険料の計算が合わなかったときは、震えが止まらず、文字通り「冷や汗」をかきました。

健康診断の実施も、根気のいる仕事です。1000人以上いる該当者全員になんらかの形で健康診断を受けてもらわなくてはならないからです。

こんな調子で挙げていったらキリがありません。やりがいは十分にある仕事だと思っています。

職員になってよかったと思うことはなにか教えてください。
為すべき仕事を無事に終わらせて、相手から「ありがとう」と言われたとき。
あとは、やっぱり、お給料をもらったときです。

今後の抱負を聞かせてください。
「仕事の上で関わっていく全ての人に迷惑をかけない。」
「リスクを未然に回避する。」
そんな事務職員になりたいと思っています。

試験対策は、何をいつ頃おこなっていたか、教えてください。
大学の勉強の方がとても忙しく、卒業論文の準備もあったため、授業期間中は試験対策に時間を割くことができませんでした。そのため、実際に勉強をしたのは、授業があまりない一月から四月の約四ヵ月間でした。
一月は、自分に合いそうな参考書や問題集を探して、その後、必要事項や公式を暗記しました。二月から四月にかけては、午前中に問題集を解いて、午後にその解けなかった部分をおさらいするということをひたすら繰り返しました。

二次試験に臨むにあたり、留意した点は何でしょうか？
自分は緊張するととても早口になってしまうので、落ち着いて話すことを第一に心がけました。
また、「どうしてこの職場を選んだのか」「この職場に入って何をしたいか」の二点は、どこの二次試験でもほぼ聞かれるので、それを自分の言葉で分かりやすく相手に伝えられるよう何度かシミュレーションしました。

二次試験は、どのような様子でしたか？
機関によってそれぞれ細かいところは異なりますが、個人面接とグループ面接はどこでも一般的に行われるようです。ある所では、まず個人面接があって、その後グループ面接がありました。またある所では、グループ面接の後、数名が残されて個人面接を受けるといった形式でした。その他、グループディスカッションを行ったところもありました。
面接官の質問も様々です。ユニークなところでは「微分積分はできますか」とか「何時に試験会場に到着しましたか」といったものがありました。

後輩へのメッセージをお願いします。
自分の好きな言葉に「適当」があります。
現在では、マイナスのイメージで使われることが多いようですが、本来は、「臨機応変」や「ちょうどよい」といったような意味を持ちます。
皆さん、試験対策もその後の生活も、「適当」に頑張ってください。

所属課名：財務部経理課

名前：K.T.

性別：男性

星座：みずがめ座

今の仕事について、内容や担当を教えてください。

教員が学会に行ったり、あるいは職員がどこかの機関に出張に行ったりした時の、出張の経費（いわゆる旅費）の計算業務と、その伝票作成業務を主に担当しています。

それから、他の機関の先生が講演をしてくださった時等に、本学から支払う謝金についての計算業務と、その伝票作成業務も行っています。

職員になる前に思っていたことと今の思いについて教えてください。

国立大学法人になったとはいえまだまだ公務員体質が残っていて、良くも悪くも「なかなか変わらない」と聞かされていましたが、実際に入ってみると必ずしもそんなことはなく、業務改善にしても、思いがけない速さで変わっていくことがありました。むしろ「動けばどんどん変わる」という、そういう意味でも非常にやりがいのある職場だと言えそうです。

あとは、大学職員というあまりあくせく働いているイメージはなかったのですが、少なくとも私のいる部署は、結構忙しいです。

仕事のやりがいは？

旅費の支払という、旅行者にとっては「もらえるまでに時間がかかる」というイメージが強いので、なるべく早くに支払えるよう、努力しています。そこで「こんなに早くもらえるなんて」と言ってもらえることが、やりがいの一つです。

職員になってよかったと思うことはなにか教えてください。

大学で仕事をしたいと思っていたので、その意味では、ここで働けること自体が、私にとってはよかったことです。

また、説明会のときに感じた職場の雰囲気、入ってから同じで、とても居心地のよい職場なので、それも、よかったことだと感じています。

今後の抱負を聞かせてください。

まだ自分の所属している系の業務の半分ほどしか習得できていないため、まずは残りの半分をしっかりと身につけていきたいと思っています。それから、正確さとともに、作業のスピードをもっと速くしていきたいと思っています。

試験対策は、何をいつ頃おこなっていたか、教えてください。

私は大学新卒で採用していただいたのですが、就活を行っていた当時は、民間、公務員を問わず、いろいろな仕事を見ていましたので、国立大学法人等の筆記試験の勉強を始めたのは、民間の就活がひと段落してからでした。確か五月入って

すぐくらいからはじめたと思います。ただ、民間の就活でも SPI 対策の勉強等をしていたので、数的処理等、SPI と似たような科目は少し見た程度でした。大学入試の際に全く勉強していなかった、日本史や物理等を重点的にやった記憶があります。

二次試験に臨むにあたり、留意した点は何でしょうか？

二次試験は短期間に一斉に行われたので、なるべく多くの大学を受けられるように、日程調整に努力をしました。

また、二次試験会場では他の受験生の方といろいろ話をして、他の大学の二次試験の形式や内容等の情報を仕入れていました。

二次試験は、どのような様子でしたか？

面接官の方と向き合って面接をする、という形式が多かったと思いますが、グループディスカッションを課す大学もあり、さまざまでした。また、一日に何回も面接をする大学もあれば、複数日に分けて段階的に面接を行う大学もありました。形式、内容ともに民間の面接とあまり変わりませんでした。まれに民間の面接では聞かれたことのない質問も飛び出しました。例えば、ある程度の規模の企業であれば、全国転勤はもちろん、海外駐在も当たり前この時代に、「親御さんのもとにいないか」と聞かれたときは、少し驚きました（地元の地方公務員になることは考えていないのか、という意味での質問だったようです）。あとは、大学職員は昔は国家公務員だったため、「国家公務員採用試験は受けたのか」という質問も何度か受けました。

後輩へのメッセージをお願いします。

仕事選びは人それぞれ、いろいろな判断基準があるかと思いますが、みなさん一人一人が、それぞれにとってよい職場につけることを、願っています。国立大学法人等の筆記試験、それから二次試験を受験される方は、よい結果が出るよう、陰ながら応援しています。

そして、もし私の働いている大学に採用された方には、今後いろいろとお世話になることと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

所属課名： 財務部 経理調達課

名前： M.S.

性別： 男

星座： さそり座

今の仕事について、内容や担当を教えてください。

私は現在会計系の部署に所属していて、その中でも物品の調達や役務の履行に関する契約を担当しています。簡単に言ってしまうと、ものを買ってお金を支払う仕事です。大学を維持・運営するために、本当にいろいろなものを調達しています。身近なものでしたら、学生が研究室等で使うパソコンやコピー機がありますし、目立たないところですと、大学から出たゴミの収集・運搬の契約もしています。(学生の皆さん、ストップ不法投棄!!)

金額もまちまちで、1円のクリップを買うこともあれば、何億円もする実験装置を導入することもあります。

職員になる前に思っていたことと今の思いについて教えてください。

大学職員という職業を選んだのは、大学という場所の雰囲気が好きだったからという理由があります。外の世界とは違った大学特有の空気のようなものがありますが、その中で仕事を出来たら楽しいだろうなと思ったのです。

しかし私の配属された部署は、キャンパスというよりはどちらかというと一般的なオフィスに近い感じでした。学生や教員と顔を合わせる機会も少なく、想像とは少し違うなと思いました。それでも、休み時間に構内を歩いてみると学生たちが元気に楽しくやっている様子も見られますし、芝生に座ってお昼を食べたりすることもできるのでその点は満足しています。

仕事のやりがいは？

研究室やサークル活動で必要なものを提供することで、学生達がより楽しく学校生活を送れるようになればいいなと思いながら仕事をしています。

もっと大きなことを言ってしまうえば、より良い社会の発展のために、日本の教育・研究に携わっていると考えると非常に誇らしい仕事だと思います。

職員になってよかったと思うことはなにか教えてください。

大学職員になってよかったと思うことは、教育・研究の最前線に身を置くことが出来るということだと思います。高額な実験機器の導入の際などには、教員と連絡を取り合い、どんな装置が欲しいのか話し合うこともあります。そういう時には教員の研究にリアルタイムで触れることができるので、得をしたような気分になります。また、無事に実験装置を調達できたとき、教員に感謝されたときは嬉しさと達成感がありました。

今後の抱負を聞かせてください。

平成 19 年 4 月からの採用ということもあり、今年 1 年は目の前の業務をこなすことに精一杯で、先を見通して仕事を進めるといことがあまりできませんでした。今後は、これは単純なものだからすぐに片付く、この契約は複雑で時間がかかるから早めに手をつけよう、というように自分で判断して時間をうまく使い、効率よく業務をこなすよう努力したいです。また、私の場合はイージーミスをよくしてしまうので、より冷静に、より集中した状態で仕事に臨む意識を持ちたいです。

もっともらしいことを言ってしまいましたが、実際は「楽しく仕事ができる」といことが一番大切だと思っているので、いつでも明るく元気でいられるように頑張っていきたいです。

試験対策は、何をいつ頃おこなっていたか、教えてください。

12 月ころから情報を集め始めました。インターネットや本から一次試験の攻略方法を探し、4 月から勉強を始めました。教材は生協の本屋で揃えた問題集を繰り返し解きました。

二次試験に臨むにあたり、留意した点は何でしょうか？

自分らしさを出せるように意識しました。自分を演出しすぎると、採用されてからがっかりさせてしまうだろうと思ったからです。

また、この大学の良いところ、好感の持てる目標・スローガンをピックアップしました。その中で特に自分の価値観と合う点を説明できるように準備しました。

二次試験は、どのような様子でしたか？

二次試験は面接が 2 回あり、一次面接は主に自己紹介カード（履歴書）に書いてある内容について質問されました。面接官はおそらく人事課の方々だと思います。

二次面接は理事等を含めた 4、5 人の方々に囲まれて緊張しましたが、いざ始まってみると、圧迫等はなく終始おだやかな雰囲気が進みました。

後輩へのメッセージをお願いします。

事務職員だからといって単純な仕事をこなしていく、というのではなくいま現場では若い人材の発想力や行動力が求められています。国立大学の法人化の影響は大きく、大学と教職員はまだまだこれからも変化していかなければならないような状況です。そんな時期に大学職員として働くというのは、大変なことも多いかもしれませんが、それは大学をより良いものに変えていくチャンスでもあります。皆様の能力を発揮できる場面は必ずあるはずなので、ぜひチャレンジしてみてください。皆様のご活躍を期待しております。

所属課名：財務部主計課

名前：N.A.

性別：女性

星座：魚座

今の仕事について、内容や担当を教えてください。

予算や決算・調達など研究に必要な金銭面の事務を扱う部署で、総務係として働いています。具体的には部長や課長の秘書業務や各課の調整、機構として報告が必要な調査の取りまとめや、政府調達事務の管理・研究に必要な任免事務書類の作成などです。

機構で行っている研究活動に必要なお金は大部分が税金で賄われているので、国民への説明責任を果たすための事務を適切に処理する必要があります。実際に行っている作業は書類作成や調整がほとんどですが、研究に滞りがないように図るのが事務系職員の役割だと考えながら仕事をしています。

職員になる前に思っていたことと今の思いについて教えてください。

就職してみて一番驚いたことは、法人化に関連して、業務の効率化や事務のスピードアップ、産業界や他大学との連携など一法人としての仕事を求められていることです。職員になる前はいわゆる「お役所仕事」を想像していたので意外でした。

民間の就職も視野に入れていたので、すんなり溶け込めましたが、ビジネス関係の本を読んだり、経済・社会関連のニュースも意識したり、他の企業で活躍している知人の話を聞いたり、仕事感覚が内輪向けにならないように心掛けています。

仕事のやりがいとは？

やはり研究成果が上がったときが一番やりがいを感じます。実際に研究を行っているのは教員ですが、それを支える職員たちにとっても喜びです。そして、機構で開発された基礎研究に基づく技術が応用され、人のためになる成果に発展した時はさらに嬉しくなります。

世間ではあまり知られていませんが、実は世界的にみても最先端の研究を行っており、高名な研究者の方々と仕事ができるのはとても刺激的で面白いです。

職員になってよかったと思うことはなにか教えてください。

雰囲気や和やかで、男女の別なく仕事と家庭のバランスがとりやすく、長く働き続けることのできる職場で恵まれていると実感しています。業務は濃いものの、年休や育児休業、時間休や時短制度などの制度が整っていて、なおかつ活用されているのは貴重だと思います。

また、英語やパソコンなど積極的に人材を育成する研修が充実していて、職員を大事にしているところも就職してよかったと感じています。

今後の抱負を聞かせてください。

受験生の頃は、就職することがゴールだと考えてきましたが、実際にはあくまで通過点でしかなく、周りの人に助けられ学ぶことの多い日々です。さまざまな物事を吸収し身につけ、一人前の職員として機構の研究を支えたいというのが抱負です。

試験対策は、何をいつ頃おこなっていたか、教えてください。

大学3年の春から、国家種・地方上級に向けての勉強を予備校でしていました。大学の授業と並行しての勉強だったので、なるべく受験に関係する授業（経済学や地理・歴史等の一般教養）を履修しました。数的処理は不得手なので毎日解き続けていました。他の教養科目は年明け頃から本格的に取り組み、過去問の他にもNHKの教養番組や高校講座を息抜きがわりに見たり、図書館で小中学生向けの調べ学習教材を読んだりして、知識だけでは忘れてしまうものをイメージで覚えるよう心がけました。また、予備校での模試を毎週のように受け、悪い結果は気にしないで、復習を重点的に行いました。各試験が始まったあとも、受けた後は必ず復習をしました。英語に関しては、TOEFLの長文読解やラジオ英会話の教材で継続的に勉強しました。

二次試験に臨むにあたり、留意した点は何でしょうか？

まず「大学共同利用機関法人」という聞きなれない響きにイメージがわからず、説明会での案内資料とホームページに目を通しました。機構で扱っている研究についても科学雑誌で目にしたことがあるという程度でしたので、一夜漬けは潔く諦めて、基本的なコミュニケーションや仕事への熱意、他人と協力できるところ、明るく元気でしっかりとした態度など、もし私が面接する側だとしたら仕事仲間に迎えたいと思えるような点を発揮しようと努めました。

二次試験は、どのような様子でしたか？

面接のみ10分間ほどでした。趣味の話や余暇の過ごし方、学生生活や英語についてなどが主に質問され、あまりに和やかすぎる雰囲気「これは不合格だからではないか？」と真っ青になりました。

後輩へのメッセージをお願いします。

受験直前期の3月ということで、心身ともに大変な時期だと思います。今まで頑張ってきたことや、あなた自身の良さに自信をもって、ひるむことなく素直に挑戦すれば必ず道はひらかれるので、希望をもって試験に臨んでください。そして二次試験はぜひ機構を受験してください。説明会だけでもお願いします。

皆さんと一緒に仕事ができることをとても楽しみにしています。

所属課名：学務部教務課教務係

名前：M.W.

性別：女

星座：獅子座

今の仕事について、内容や担当を教えてください。

- ・大学（学部生）の講義に関すること全般についての窓口対応および事務作業。教務係では、履修状況の確認や、各種資格取得に関する事務手続きのために窓口に来る学生への対応の他にも、特別講義の手伝い、教務委員会の準備・摘録作成、成績データのとりまとめ、時間割およびカリキュラムの作成といった教員と行う仕事や、講義室の管理、授業関連備品の補充といったものまで幅広い仕事を5名で行っています。簡単な対応は全員できるようにし、詳細は主担当者が把握する形をとっており、日々の仕事では非常勤講師の出勤管理、長期的な仕事では履修ガイドの作成などを担当しています。

職員になる前に思っていたことと今の思いについて教えてください。

- ・学生対応などの窓口以外の仕事って、どのくらい多いのかな。偶然、学生対応窓口系の部署に配属されましたが、総務系、財務系の部署のほうが職員数は多いです。意外だったのは、外国語を使用できることが望ましい部署が多いことで、留学生への対応時などは、英語そして中国語ができる人が重宝されます。
 - ・残業は少なそう。家庭と両立しやすいといいな。部署および時期によっては、それなりに残業はありますが、要領よく仕事をこなしている諸先輩方を見ていると、ライフワークバランスはなかなかよいのではないかと思います。

仕事のやりがいは？

- ・的確な対応ができた時は、よかったと思う。データの整理などの地道な仕事もありますが、それを基に、窓口、電話、メール、などによる問い合わせに対する的確な対応ができると、よかったと思います。人事異動で学生や教員との関わりが少ない部署になると少し寂しいかもしれませんが、また異なる形で貢献できるのではないかと思います。

職員になってよかったと思うことはなにか教えてください。

- ・出身校以外の大学について知ることができたこと。
- ・大学、教職、学芸員などの教育関係の最近の動向を知ることができること。
- ・学内の講演会などで、自然科学系のトピックスにふれられること。

あと、時々、大学所有の練習船で水揚げされたお魚を味わえることも楽しみだったりします。

今後の抱負を聞かせてください。

・履修規則および関連事項を理解し、学生・教員に適切に対応できるよう努める。

このほかにも、日々の業務を着実に遂行し、仕事効率を上げるため ACCESS 等の使い方も勉強していますが、文章力の向上が、一番の課題だと感じています。

試験対策は、何をいつ頃おこなっていたか、教えてください。

・事前の対策よりも当日の対応力。

一次試験については二度受験しており、出題傾向・時間配分を把握した上で、苦手分野の人文科学・社会科学の市販の問題集を解いたりもしましたが、得意とする自然科学、数的推理などの問題は時間をかけて落とさないように回答し、苦手分野は時間をかけずに直感で回答しました。

二次試験についてはまったくの出たところ勝負で臨んでいましたが、複数人での面接時に他の受験者の模範的な解答を聞き、即興で解答を編集。質問される順番が最後だったのは幸運でした。

二次試験に臨むにあたり、留意した点は何でしょうか？

・二次試験（面接）の予約をとること。

一次試験の結果発表の数日後に行われた「合同説明会」に参加できなかったため、二次試験の予約をとることが非常に困難でした。電話予約が取れた1機関2大学、郵送・FAXでの応募が可能であった1大学、の計4か所しか受験できませんでした。合同説明会でのみ予約可能な機関もあるため、出席することをお勧めします。

二次試験は、どのような様子でしたか？

・機関によって全く異なります。

採用には至らなかった大学および機関では、受験生1名に対し、面接担当者2～5名程度による個別面接を複数回するようでしたが、採用された大学では、受験生3名に対し、面接担当者5名程度の複数人での面接で、1回の面接試験で採用が決まりました。

後輩へのメッセージをお願いします。

環境科学および科学教育に関心があったため、理工系の大学で教務事務に携わることができ、嬉しいです。関東甲信越地区には、それぞれに特色を持つ国立大学法人、国立高等専門学校、大学共同利用機関法人、その他の独立行政法人がたくさんありますので、皆様も、自身の興味や特性にあったすばらしい職場を探してみてください。

所属課名：学生課教務係

名前：D.S.

性別：男性

星座：おひつじ座

今の仕事について、内容や担当を教えてください。

学生課教務係員として、留学生関係、教材関係、インターンシップ関係を主に担当しています。

留学生関係では、留学生担当教員と共に、日本人学生との交流会、研修旅行などの各種イベントの企画、運営をしています。

教材関係では、教科書や副教材の書店への発注などを行っています。

インターンシップ関係では、受入れ企業への事務文書の送付、各種保険への加入手続きなどを行っています。

職員になる前に思っていたことと今の思いについて教えてください。

私の出身大学では、学生課の職員は黙々と仕事をしているイメージがあったので入る前は、職場の雰囲気がとても不安でした。

しかし、いざ入ると、イメージとまったく違い和気あいあいと仕事をさせてもらっています。

仕事のやりがいとは？

やはり、学生に感謝してもらえることです。

学生が「ありがとう」と言ってくれた時は、自分のしている仕事が学生のためになっていると実感でき、学校の職員になってよかったと感じます。

職員になってよかったと思うことはなにか教えてください。

色々ありますが、今は留学生を担当しているので、特にさまざまな国の留学生から、出身国・地域のことや、日本との違いなど、貴重な話を聞くことができ、他の職種にはなかなかない経験ができることです。

今後の抱負を聞かせてください。

当然ですが、教員と比べて事務職員は学生と接する機会が少ないので、あまり名前を憶えてもらえません。

今後は、意識的に学生と接する機会を多くつくり、より多くの学生から名前と呼ばれる事務職員になりたいと思います。

試験対策は、何をいつ頃おこなっていたか、教えてください。

私は、教養だけしか勉強していないので、10月頃から始めました。通信教育を活用したので効率的に勉強できました。

二次試験に臨むにあたり、留意した点は何でしょうか？

自己分析にかなりの時間を使いました。自己分析がしっかり出来ていれば、面接で不意な質問をされても答えることができますと思います。

それと、どのような質問でも本当のことを答えることです。印象が良くなるように、うそをついても必ずぼろが出ます。反省すべきことは、素直に「反省している」と答えた方がいいと思います。

二次試験は、どのような様子でしたか？

機関によって違うと思いますが、私の受けたところはすべて、想像していたより、和やかな雰囲気でした。

面接というより、世間話をしているような雰囲気でした。

そのような雰囲気だったので、言葉につまるというようなこともありませんでした。

後輩へのメッセージをお願いします。

きっと、皆さんの想像しているより楽しい職場だと思います。

試験対策は、つらい時もありますが、それを乗り越えたら楽しい社会人生活が待っているのです、頑張ってください。

所属課名：研究支援・産学連携チーム

名前：Y.K.

性別：女

星座：いて座

今の仕事について、内容や担当を教えてください。

教員と企業等との共同研究や受託研究などの契約手続きをしたり、教員が補助金や研究助成に応募したり採択された際の事務手続きをしたりする部署にいます。研究機関としての大学にかかわる部署です。

私自身がやっている業務の内容は主に2分野になります。

1つは、共同研究の契約事務。教員が企業と共同研究をする場合、企業と大学という機関同士の契約を締結します。教員の研究がしやすく、なおかつ企業も納得がいくような内容になるように、契約内容について専門知識を持った職員と協力しながら企業と折衝し、契約締結を目指します。

1つは、知的財産に関する事務。知的財産に関する専門知識を持ち、専門の業務を行う職員の経費管理や公印の捺印などの処理をしています。

職員になる前に思っていたことと今の思いについて教えてください。

自分が、学生時代が楽しかったと思っていたことと、もともと教育に興味があったから教育機関としての面の大学に興味があり、世の中を回す基礎に科学技術があると思っていたので、研究機関としての大学に興味がありました。特に、研究機関としての大学を支える一員になりたい、と思ったことが、大学職員を志望した理由です。

そのため、大学職員としてまずイメージする学生系よりも、総務系で働きたいと思っていました。現職は総務系であり、また教員の研究を支援する部署にいたので、大学職員として希望する職についています。もちろん、採用のときの人事計画からの偶然であり、今後はいろいろな部署を経験することとはなりますが。

職員になってから、周囲から「夏休みはやっぱり長いの?」と言われて、それが教育機関の職員に対する見られ方なんだなあ、と実感しました。外から見ると、「大学職員で何やっているのかな? (休み多くてラクそうだよな?)」というところですね。

私自身は、教育機関に勤める知人がいましたので、学生が休みの夏休みも教職員は休みではないことは知っていました。しかし、夏休みはなくとも、時間に余裕が出るかな?と考えていたのですが、そういうことはありませんでした。前職(転職前)では、ヒマなあまり疲れて眠気に襲われる(ヒマ疲れと言っていました。本当には寝ないですよ)ことがあったのですが、そんなヒマはありません。気づくと、業務時間が終わっている日々です。また、その場で対応しなければならぬことが多くあったことも、予想とは違いました。前の職場はルーチンワークが多く退屈なときもあったので、望んでいたことではありますが、思っていた以上の忙しさは、驚きでした。

仕事のやりがいとは？

とてもやりがいがあります。指示されたことをやる、というよりは、相談しつつも、自分で考えて仕事をこなしていかなければなりません。突発的事項も多く、その場での対応の必要もあるため、どうするのか、頭をフルに回転しながら毎日を過ごしています。また、教員から相談を受けることもあり、安易に答えることはできないのでその分、知識を身につけ、経験を身につけるべく、自分を管理していく必要もあります。

職員になってよかったと思うことはなにか教えてください。

女性が多く働いている職場なので、ずっと働いていくビジョンが見えることです。学生時代の友人には結婚や出産で離職してしまう人が多いのですが、この職場なら結婚しても出産しても働いていけるなあ、という前例となってくれる職員が大勢いるので、人生設計が建てやすいところです。

また、おまけですが、本学は農学部があるので、生産品の販売があり、出所のわかる美味しい食材を買えることも、職員になってよかったことです。(生産品は学外の方にも販売されています。)

今後の抱負を聞かせてください。

各部署を経験し、より大学についての知識を深めたいと思っています。

今後は、異動していろいろな部署の業務を経験していくこととなると思います。が、いずれ産学連携の部署にまた戻って、その経験を役立てていきたいです。

試験対策は、何をいつ頃おこなっていたか、教えてください。

仕事の都合からもなかなか思い切りつかず、2月下旬に受験を決めたので、3月から勉強を始めました。予備校に通う暇もお金もなかったので、参考書を使った独学のみです。

一般教養だけとはいえ、試験と縁遠くなって勘も鈍っていたので、ちゃんと勉強しなくてはと思い、部門ごとの参考書を使い、4月上旬ごろまで勉強するつもりでした。しかし3月から4月は、前職では一番忙しい時期だったので、計画通りには行きませんでした。4月下旬からは、間に合わなかったところはすっぱりと諦めて、公務員試験用の過去問集を使いました。過去問集は、練習を多くした方が良い(と思った)数的処理や読解ばかりをやっていました。社会科系の暗記分野は、通勤の行き帰りの電車の中で勉強し、苦手な分野は問題を解いてもできなくてもへこむだけなので、理科分野は全くやりませんでした・・・。

説明会など出る余裕もなく、情報収集もインターネットが主でした。

二次試験に臨むにあたり、留意した点は何でしょうか？

多くの機関を見て回りたかったのですが、在職中で時間の制限があったので、自分が本当に行きたいと興味を持った機関だけを受けるとしました。

面接では、正直に話すことを心がけました。例えば、志望順位が第一志望ではない機関にはそのことも正直に話していました。現在勤務している機関も、第一

志望ではありませんでしたし、そのように応募書類にも書いて、面接でも正直に話しましたが、採用となりました。第一志望ではなかったのですが、面接を受けて、一番印象が良く、雰囲気良かったのは本学でしたので、相性が良かったのだと思います。

「正直にやってみてダメなら、自分には合わないということだし仕方がない、どこも受からなかったら諦めていまの会社にいるという選択肢もある」とも思っていました。

二次試験は、どのような様子でしたか？

どこの機関も、概ね和やかな面接でした。「自分の機関と受験者の相性はあっているか？」という点を重視していたのではないかと思います。そうでないところもありました。

どこにいきたいかを決めかねている方は、可能な限りいろいろな機関の説明会に出席して、できる限り多くの機関の面接を受けて相性を見てもいいのではないかな、と思います。

後輩へのメッセージをお願いします。

国立大学が法人化されてからまもなく4年経ちますが、まだまだ、あるべき姿を探りながら変化している、と感じます。

これからどうなっていくのか、を決めるのは教員だけでなく職員でもあります。組織の中で自分の力を試したい、と思っている方にはとても良い職場だと思います。

また、最先端の研究に触れる機会もあり、知的好奇心を満たす職場でもあります。

自分の力を試したい好奇心旺盛な方は、是非一緒に働きましょう。

所属課名：医学部医事課

名前：Y.U.

性別：男性

星座：さそり座

今の仕事について、内容や担当を教えてください。

病院の診療費の収入チェック業務に携わっています。主に、診療費が未納である患者様に診療費の支払いを依頼し、その後支払いの確認をする業務や内容不明の未収金についての調査業務を行っています。

また、診療費の未納等、患者様に連絡する機会があるのですが、直接対応することもあるので、収入チェック業務以外にも気を遣わなければなりません。

職員になる前に思っていたことと今の思いについて教えてください。

事務職員は、書類の処理等が中心でほとんど人と接することのない仕事だと考えていましたが、実際には要所要所で人と関わることが多いと思いました。

仕事のやりがいは？

自分の仕事の成果が未収金の総額といった形でわかりやすいので、未収金を少しずつ減らしていくのがやりがいです。

職員になってよかったと思うことはなにか教えてください。

社会的な信頼性があることと安定感を得られたことがよかったと思います。

今後の抱負を聞かせてください。

自分の担当部署の業務だけでなく、他の部署の業務も覚え、部署間でより連携のとれる職場を形成していきたいと考えております。

試験対策は、何をいつ頃おこなっていたか、教えてください。

その年の4月から某大手公務員予備校のテキスト、問題集を何度も解いて試験に臨みました。

二次試験に臨むにあたり、留意した点は何でしょうか？

変に身構えたり下準備をしすぎていたりすると、逆に緊張してしまうので、リラックスし、ありのままの自分のPRしようと思いました。

二次試験は、どのような様子でしたか？

和やかな雰囲気です緊張せず面接ができました。

後輩へのメッセージをお願いします。

試験勉強は大変ですが、自分で選んだ道だろうと思うので、その道を信じて頑張ってください。もし挫折しそうになったら初心の志を思い出してください。

所属課名：情報処理センター（技術系）

名前：N.I.

性別：男

星座：射手座

今の仕事について、内容や担当を教えてください。

- ・情報処理教室のPCの管理・運用
情報処理教室に設置してあるパソコン、プリンタ、LAN配線などのメンテナンス、障害時のシステム業者との連携。
- ・学内情報システム、学内LANの管理・運用
サーバ、ネットワークについて設定、障害時のシステム業者との連携。

職員になる前に思っていたことと今の思いについて教えてください。

大学での仕事は高度な知識が求められる仕事が多いと思っていたが、これほどの職業でも多分に言われますが、採用当初は雑用に始まり雑用に終わるという現実。ただ、雑用を工夫してこなすなどそこにやりがいを感じるくらいになれば、今後の仕事に役立つと思い働きました。

仕事のやりがいは？

情報システムは学内の重要な基盤となっているため、その裏方として大学に貢献しているところ。また、学生や教員との接点が多く、その際の要望に応えられたとき。

職員になってよかったと思うことはなにか教えてください。

技術職特有かもしれませんが、先端の研究分野で使われる新しいコンピュータ機器類に携わることができる。また、それを利用した研究分野に陰ながら貢献できるところやそのような研究をしている教員から専門知識を教えてもらえること、話を聞けること。

今後の抱負を聞かせてください。

仕事の分野に関する専門知識の日々の自己研鑽を行い、企業研修(大学から企業で行っている研修に参加するもの)等を活用してスキルアップを図って行きたい。

試験対策は、何をいつ頃おこなっていたか、教えてください。

- 一次試験の筆記試験は一般教養だけなので併願していた公務員試験の内容を1年程度。特に意識して大学職員採用試験用に対策はしていません。
- 二次試験は一次試験合格後に模擬面接を数回行いました。

二次試験に臨むにあたり、留意した点は何でしょうか？

- ・面接での服装と身だしなみ、声の大きさ

- ・面接で予想される基本的な質問に対する回答の整理
- ・業務に必要と思われる専門的知識の確認

二次試験は、どのような様子でしたか？

時間にして20分程度、緊張感があるなかで、5、6名の面接官から順次質問がありました。質問内容としては志望動機など基本的な事項及び専門性を問われるものまで幅広く聞かれました。また、他機関との併願状況と第 希望の確認がありました。

後輩へのメッセージをお願いします。

採用当初は採用前に考えていたこととかけ離れた仕事内容が多く焦りを感じるかと思いますが、最初の数ヶ月は少なからず耐えることも必要かと思いました。最初のうちは、先輩方の意見を素直に聞いて働いていれればいずれ認めてくれて、責任のある仕事も任されるものと思いますので長い目で見ることを大切にしてください。

皆様方が試験に合格され希望の機関・部署に配属されることが一番望ましいことと思いますが、必ずしも希望どおり配属されるとは限らないと思います。そのようになっても自分なりに意義を見つけて仕事に対する熱意を持っていればがんばっていけるとと思います（私自身まだまだ道半ばですが・・・）。

所属課名： 施設部施設整備課（技術系）

名前： A.S.

性別： 女

星座： ふたご座

今の仕事について、内容や担当を教えてください。

仕事内容は、大学敷地内の建築や土木に関わる工事（新営、改修、屋外環境整備等）の計画、設計、積算、発注、工事監理です。具体的には、まず計画段階ではユーザーである教員や学生との話し合いを元に概要を決めていきます。次に設計で工事に必要な材料の数量を拾い出して積算し、予定価格や図面、特記仕様書、現場説明書といった設計図書を作成します。そして金額に応じて一般競争入札などを行って業者を選定します。その後工事が始まると、工事現場において施工業者が図面通り工事を行っているか監督します。



私が今担当している業務は、校舎の耐震改修を主目的とした大規模改修工事です。それに付随する屋外環境整備も行っており、建築といっても業務内容は多岐にわたっています。

職員になる前に思っていたことと今の思いについて教えてください。

職員になる前は、いわゆるオフィスを想像していました。図面や書類を作成する業務が主だと思っていたため、室内での作業になるだろうと思っていました。実際はそのほかに現場監督業務や打ち合わせがあるため、頻繁に外に出ています。大学構内の工事がほとんどとはいえ、敷地が広いために移動には自転車や車を使用することもあります。

百聞は一見にしかずとよく言いますが、現場から学ぶことはとても多く、「工事は会議室で起きてるんじゃない、現場で起きてるんだ」ということを日々実感しています。今は上司や先輩の指導を受けながら、日々勉強の毎日です。

仕事のやりがいは？

さまざまな関係者と連携を取りながらものを作り上げていくことです。

工事は建築（土木）、電気、機械の3種類に担当が分かれており、たくさんの工程が絡み合うようにして進んでいきます。業者とのやりとりはもちろんのこと、

ユーザーである教員や職員との意見調整も必要です。設計に学生が関わることもあります。これらの調整役としてうまく連携を取っていくことは予想以上に大変なことですが、そこがやりがいを感じるところでもあります。

職員になってよかったと思うことはなにか教えてください。

常にユーザーを第一に考えながら仕事をするということが身についたことです。

大学施設部業務の特徴は大きく2点あり、1点目は工事に計画段階から完成まで立ち会うことができる点、もう1点は工事現場が大学の敷地内であるためにいつでも様子を見に行け、かつユーザーの反応などを肌で感じるができるという点です。

工事が決まってから建物が完成するまでは長い道のりです。私はまだ1つの工事について、計画から完成まで全ての工程に携わったことはありませんが、自分の頭に思い描いていたものが、だんだんと形になっていく過程を日々体感しています。できたものに対する反応は、ユーザーが身近にいるため完成途中であってもすぐに伝わってきます。これらの意見を参考に、修正を行ったり次につなげたりできるというのは、大学職員ならではのことでないかと思っています。このように、ユーザーを第一に考えるということの大切さを実感することができてとてもよかったと思っています。

今後の抱負を聞かせてください。

工事は建築以外にも様々な工種が組み合わさって成り立っています。今は自分の担当(建築)のことを把握するのに精一杯ですが、建築以外のことにも自然に気を配れるようになりたいです。

また、施設のことは さんに聞けばわかるというような存在になりたいです。

試験対策は、何をいつ頃おこなっていたか、教えてください。

公務員試験対策の本などを参考にして、12月ぐらいから勉強を開始しました。特に教養科目は範囲が広いので、ざっと一通りやった後は、その中から得意なものとして苦手なものを重点的にやりました。

専門科目は、過去問がなかったので同じような試験の過去問や予想問題などを参考にしながら教養科目と並行して進めました。全体的にまんべんなくやるように心がけました。

二次試験に臨むにあたり、留意した点は何でしょうか？

志望動機を明確に、実際に職員になってから何をしたいかをイメージするようにしました。また、この大学でこそできるものは何か、なぜ大学職員になりたいのかを自己分析しました。

二次試験は、どのような様子でしたか？

雰囲気は和やかで、わりとやりやすかった印象があります。

面接で聞かれた事は、志望動機（施設部でやりたいこと）、なぜ大学職員か、構内の印象、趣味（学生の頃のサークル活動）、学校での研究内容などで、基本的には面接会場で記入したエントリーシートのようなものに沿った質問でした。

後輩へのメッセージをお願いします。

大学職員というと、具体的に何をやっているのかイメージしにくいかと思えます。特に技術職は、情報もあまり多いとはいえ、ただ漠然と「大学の施設整備」というようなイメージをもたれている方も多いのではないのでしょうか。

国立大学はそれぞれに歴史を持っていて、それらの保存が必要です。また、同時に最先端の研究が行われている場所でもあり、それらに合った建物が必要です。このような歴史と最先端を、その時代のニーズに合った形に融合させていく役割を果たしているのが大学施設部だと思います。

施設の維持保全と最新の建物、両方興味がある方、大学では是非一緒に働きましょう。お待ちしております。

用 語 集

ここでは、体験談に出てきた言葉で普段なかなか馴染みのない言葉や説明会などでよく使われる言葉を中心に、わかりやすく解説をします。

わかりやすく説明することを第一にした表現ですので、厳密な正確さに欠けるところもあるかもしれませんが、おおよそのイメージをとらえていただくことを目的として平易な言い回しとしています。

さらに詳しいことを知りたい場合は、関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験事務室へお問い合わせいただければ、補足説明や参考資料をご紹介しますので、ご遠慮なくお尋ねください。

一般競争入札（24ページ） いっぱんきょうそうにゅうさつ

売買・請負契約などにおいて最も有利な条件を示す者と契約を締結するために、入札情報を告知して複数の契約希望者を募り、内容や入札金額を書いた文書を提出させて、内容や金額から契約者を決める方法。

役務（9ページ） えきむ

要するにサービスのことです。主な例として、運送、広告、清掃、ゴミの収集・運搬などがあります。

過去問集（12、18ページ） かこもんしゅう

国立大学法人等職員採用試験の問題は公表していません。一般的に「過去問集」といった場合、公務員試験の過去問集等を指していると思われます。

学内の総務担当者 がくないのそうむたんとうしゃ

総務部を指したり、総務課を指したり、使われる場面で何を指しているのか場合によって異なりますがおおよそ、部や課の中の連絡や調整をする役目をする人のことをいいます。

機構（11ページ） きこう

ここでは、「高エネルギー加速器研究機構」を指していると思われます。名前が長い機関名は、たとえば、「大学評価・学位授与機構」も「機構」と略して言ったり、「総合研究大学院大学」を「総研大（そうけんだい）」と省略して言っています。

教職員の転入・転出（5ページ） きょうしょくいんのてんにゆう・てんしゅつ

教員や職員が他の機関から転勤してくることを転入、逆に他の機関に転勤していくことを転出といいます。転入・転出という言い方は、主に人事関係の業務で使われる言葉です。

日常、職員どおしで会話をする場合は、転入・転出をひっくるめた意味での“人事異動”という言葉のほうが多いように思います。

共同研究（17ページ） きょうどうけんきゅう

大学や研究所等が、企業や法人など学外の機関と共同で実施する研究。

教務委員会（13ページ） きょうむいいかい

年間の学事日程や教育カリキュラムなどを検討するために、教員や職員での打合せをして決めますが、それらを具体的に検討するための集まりです。学務委員会や学部教育委員会というような言い方をしている大学もあります。

兼業（3ページ） けんぎょう

所属する大学等以外で仕事をする。例えば教員が他大学で非常勤講師をする、などです。兼業を行う場合は、事前に許可を受けなければなりません。

高専 こうせん

耳で聞くと「コウセン」？わからない気がしますが、工業高等専門学校という名前が長いので、「高専（こうせん）」と省略して言います。高等専

門学校や短期大学、大学は、高等教育機関といわれます。学校教育法に定められています。

合同説明会（１４ページ） 　ごうどうせつめいかい

関東甲信越地区では、第一次試験合格発表の後の直近の日曜日に、関東甲信越地区内の大学等機関が一同に集まって説明会を開催しています。これは、受験者のみなさんが、各機関の情報を集めるために遠距離を移動せず一カ所で済むようにとのねらいで開催していますが、合同説明会以前に自分で興味のある大学等の情報を直接収集しても構いません。

合同説明会に参加しないことが採否に影響するわけではありませんが、合同説明会の場で二次試験の予約を受け付ける大学等もありますので、参加することをお勧めします。

平成２０年度の合同説明会は、平成２０年７月６日（日）に開催する予定です。例年、東京大学を会場としていますが、詳しい情報は、採用試験事務室ＨＰで随時更新しますのでご確認ください。

(<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/ssj/>)

産学連携（１８ページ） 　さんがくれんけい

“産”は、産業界のこと。“学”は大学等の教育や研究をする機関や学会のこと。例えば、大学と企業が共同研究をすることも、産学連携の一つの具体的な例です。

時短制度（１１ページ） 　じたんせいど

育児中の職員が、勤務時間を短縮して勤務ができるように、就業規則などで定めています。

受託研究（１７ページ） 　じゅたくけんきゅう

大学や研究所等が、企業、法人など学外からの委託を受け実施する研究。委託する企業等は、経費を負担し、研究は行いません。

照会 しょうかい

問い合わせを確認することです。

情報処理教室（22ページ） じょうほうしょりきょうしつ

大学の授業科目で情報処理関係の授業を行うためのパソコンなどが整っている特別な教室が設置されている大学もあります。数十台ものパソコンが並んでいる教室も珍しくありません。

人事交流 じんじこうりゅう

要するに“転勤”のことです。職員が他の機関へ転勤したり、他の機関の職員が転勤して来たりすることです。

政府調達事務（11ページ） せいふちょうたつじむ

国などが、購入や借入によって物品やサービスを調達（買ったり借りたりすること。）することを、政府調達といいます。

昭和56年1月、「政府調達に関する協定」が発効し、政府調達の分野に内外無差別、内国民待遇等の規律が設けられました。国立大学法人等が必要な物品・機器などを調達する場合（基準額以上）には、この協定に基づくいろいろな規定に従って仕事をする必要があります。そのための仕事を、政府調達事務と言っています。

調達（9ページ） ちょうたつ

とりそろえること。要するに、必要な物品や機器などを買ったり借りたりすることです。

摘録（13ページ） てきろく

要点をкаいつまんで記録すること。又は、かいつまんで記録したものを言います。議事録と同様な意味で使います。

配属先（５ページ） はいぞくさき

大学や研究所などの機関の単位の意味で使用される場合もあるし、係という最小単位の意味で話をされる場合もあるため、文脈の中で異なります。疑問に思ったら、具体的にどのような内容かを確認したほうがよいでしょう。

発令（３ページ） はつれい

辞令を出すこと。辞令とは、職員の採用や配属先の異動等の際に、その旨を書いて本人に渡す文書のことです。

本部 ほんぶ

大きな大学では、学部ごとに事務部があることが多く、学部ごとの事務部に対して、学部をとりまとめたり大学全体の事務を担当する本部が別にあることがあります。学部事務に対して本部事務というように使うこともあります。

文部科学省共済組合 もんぶかがくしょうきょうさいくみあい

企業の場合は、社会保険に加入しますが、国立大学法人等職員は、国家公務員共済組合法に基づく文部科学省共済組合に加入します。共済組合では、健康保険と年金保険の運営を行っています。共済組合員証(要するに、医療機関にかかるときに提示するいわゆる「保険証」。)が発行されます。

練習船（１３ページ） れんしゅうせん

実際に海に出て学生の航海訓練をしたり、海中生物の生態調査をしたりする場合には船が必要になります。水産学部や海洋学部などのある大学・研究所では、そのための船を所有しています。

なお、農学部等のある大学では、学生の実習や研究に必要な“農場”や“演習林”などがあり、飼っている牛のミルクから作ったアイスクリームの販売などを行っているところもあります。

労務 ろうむ

耳で聞くと「ロウム」。わからない気がしますが、要するに、働く人や働くことに関係する制度に関する事務のことです。